

## 留学生による自律的な漢字学習を実現するための支援方法の開発と実践

早稲田大学日本語教育研究センター准教授 黒田 史彦  
広東工業大学外国語学部日本語科助教 李 羽喆

### 研究成果要約

#### 1. 研究活動の概要

本実践研究では、大学の留学生たちが、漢字そのものだけではなく、漢字の学習方法や学習リソース、学習ツールの使い方を学び取る機会を広く提供するために、授業外で希望者が自由に参加できる「漢字ワークショップ」を企画し、平成24年度内に9回にわたって開催した。漢字ワークショップ（以下、WS）においては、留学生たちが覚えた「漢字の数」ではなく、「漢字を使って何ができるようになるか」に主眼を置くことを心掛けた。同時に、留学生たちが漢字の学習方法や学習リソース（ウェブサイト、学習図書）、学習ツール（スマートフォンのアプリ、電子辞書）、独自に開発した「個人化辞書シート」などを活用しながら、自主的な学習を計画的、継続的に遂行し、各自の目指す理想的な漢字ユーザーに近づいていけることを目指した。さらに、自律的な漢字学習を支えるためには、どのような人的・物的な支援が必要なのか検討を繰り返し、改善を積み重ねていった。

#### 2. 研究成果の概要

WSは、日本語教員と大学院生が中心となって運営し、春学期には月1回のペースで全4回、秋学期には隔週で全5回開催された。秋学期に開催したWSでは、まず参加者に次のような漢字学習に関して「できること」「知っていること」をチェックしてもらった。

- ・ 認識：漢字をいくつかのパーツに分けることができる、など
- ・ 探索：初めて見た漢字の読み方を自分で調べることができる、など
- ・ 記憶：勉強した漢字を覚える方法を知っている、など
- ・ 複合：基本的な部首とその意味を知っている / 漢字を見てその読み方が推測できる、など

その後、チェック項目に対応した漢字タスクに取り組んだ。タスク活動を通じて、漢字学習に役立つリソースやツールを使うことができるようになることが主な目的である。

続いて、参加者がWSで扱ったリソースやツールの活用を盛り込みながら、次回WSまでの学習計画を作成した。学習計画の項目は「目標：できるようになりたいこと」および「2週間の行動計画：目標のためにすること」である。教員や院生とのやりとりを通じ、できる限り具体的かつ実現可能な計画が立てられるよう努めた。

2回目以降のWSでは、2週間分の学習が計画通りに進んだか否か自己評価を行い、振り返りシートに記入した。項目は「漢字の勉強は予定通りにできたか」「漢字の勉強で難しかったことや分からないこと」「その他の気付き」である。

WS外で個々の参加者が自分の漢字学習を記録し、自らの学習プロセスを意識化することを意図して「個人化辞書シート」を作成、利用した。継続的な使用により、漢字を文脈の中で考え、使用する姿勢を育むことも目的である。このシートでは、ひとりひとりの参加者が自分にとって必要性の高い漢字（語彙）を「今日のことば」として毎日ひとつずつ選び出し、どのような文脈でその漢字を見聞きしたのかを記録すると共に、学習リソースやツールを利用してその漢字について調べたことや既有知識との関連も整理する。さらに、当該の漢字を自分なりに覚える方法についても記録できるようになっている。

春学期WS（全4回）および秋学期WS（全5回）の参加者数は次表の通りであった。

残念ながら最後まで継続して参加した学生数は限られているものの、質問紙調査（6名）およびインタビュー（2名）では

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
春学期	14	8	5	7	—
秋学期	13	15	7	8	4

大半の参加者がWSは有意義であったと回答しており、「サポーター [教員や院生] から教えてもらったオンラインの漢字学習リソースが役に立った」「自分でオンライン学習リソースを使って漢字の勉強を続けていきたい」「教室外でも漢字を学習しようという気になった」といった肯定的なコメントが得られた。

### 3. 成果活用について

本実践研究における「個人化辞書シート」などの成果は、各種学会や研究会で積極的に発信していく。ワークショップ形式による自律的な漢字学習の支援について様々な専門家や教育者からフィードバックをもらい、より効果的な漢字学習支援の在り方を追求していきたい。

### 4. 今後の研究課題

WSは、授業外で留学生が自らの漢字学習を設計、実行、検証する機会を提供することにより、学習リソースやツールを活用した自律的な漢字学習の実現を目指した取り組みであった。今回は漢字学習に特化した試みではあるが、より大局的な観点から眺めれば、自律的な日本語学習者が育つ環境を構築していくための第一歩としても位置付けられ得る。今後は日本語学習全般を総合的にサポートできるような支援体制を整備していきたいと考えている。

## 研究成果報告

### 1. 背景と目的

大学を始めとした教育機関において、外国語として日本語を学んでいる留学生たちの間では、漢字学習のニーズは極めて高い。早稲田大学日本語教育研究センターでは、従来、留学生たちの希望に応えるべく、漢字クラスの拡充を図ってきた。総合的に漢字を学ぶレベル別クラスを初級から超上級まで展開することに加え、「生活の中の漢字」など特定のテーマに焦点を絞った漢字クラスも開設してきた。しかし、留学生数の増加とその学習背景の多様化は驚くほど急激に進んでおり、従来の「漢字クラス増設」という対処方法では、ニーズに十分な対応ができなくなりつつある。そこで今後は、漢字クラスの中だけで漢字教育を行おうとしてきた方針を改め、教室の外において、留学生が自分に必要な漢字を、自分の都合のよい時に、自分に相応しいペースで、最も効果的な学習方法で学んでいけるような環境、つまり、自律的な漢字学習が実現できる学習環境の創造に取り組まなければならない。

本実践研究では、留学生たちが「漢字そのもの」だけではなく、漢字の学習方法や学習リソース、学習ツールの使い方を学び取る機会を広く提供するために、授業外で希望者が自由に参加できる「漢字ワークショップ（以下、ワークショップ）」を企画し、平成24年度内に9回にわたって開催した。ワークショップにおいては、留学生たちが覚えた「漢字の数」ではなく、「漢字を使って何ができるようになるか」に主眼を置くことを心掛けた。そして、留学生たちが、漢字の学習方法や学習リソースなどを活用しながら自主的な学習を計画的、継続的に遂行し、各自の目指す理想的な漢字ユーザーに近づいていけることを目指した。同時に、自律的な漢字学習を支えるためには、どのような人的・物的な支援が必要なのか検討を繰り返し、改善を積み重ねていった。

次節以降においては、この一連のワークショップで行った活動の内容について紹介し、次いで「個人化辞書シート」について取り上げた後に、ワークショップの最終回に実施した質問紙調査とインタビューにより得られた参加者の声を詳しく報告する。

### 2. 漢字ワークショップの概要

本実践研究の根幹をなすワークショップは、研究協力者である日本語教育研究センターの教員と研究補助者である日本語教育専攻の大学院生が「漢字サポーター（以下、サポーター）」となって運営した。平成24年度前期（春学期）には、4月から毎月1回のペースで全4回開催した。後期（秋学期）には、10月下旬から隔週で全5回にわたって開催した。いずれのワークショップも学内のパソコン教室で行い、時間は90分間であった。ワークショップでは、参加者の母語や日本語の習熟度に合わせて、サポーターが英語、中国語、日本語で対応した。その他、ワークショップの前段階として漢字のあらましや仕組みを知る「特別セッション」も設けた（特別セッションで扱った内容については、川口（1995、2010）を参照のこと）。

以下、①から⑦において、主に平成24年度秋学期に実践したワークショップの運営と進行手順について順次述べていく。

## ① 広報活動

ワークショップへの参加を促すために、学内の留学生向け掲示板にポスターを貼り出し、フライヤーを配布・配架した。また、学内で運用している留学生向けメーリングリストを通じて、ワークショップへの参加を呼び掛けた。

今回のワークショップのポスター等は、英語版に加えて中国語版も準備した。中国語話者は漢字の認識と意味理解が比較的容易であるため、漢字学習を蔑ろにしがちである。同様に、日本語教育に携わる者も、中国語話者に対する漢字教育にはあまり時間を割かない傾向がある。しかし、実際には、中国語話者が日本の漢字や漢字語彙の運用で困っていることが少なくないと考えられたため、敢えて中国語話者に対する広報活動に力を入れ、ワークショップへの参加者を積極的に募った。

**NEW (task-based) KANJI WORKSHOP**

Do you want to go to the Kanji Workshop with me?

Kanji Workshop? What is it?

Students can get useful information about learning Kanji on their own. They can select activities according to their personal needs & kanji-proficiency.

Is it a class?

No, it's not. Grad school students will give us ideas about self-study.

Sounds good! When and where?

Look here!

☆NEW Kanji Workshop for Fall 2012☆

#1	Oct. 26	(Fri)	16:30 - 18:00
#2	Nov. 9	(Fri)	
#3	Nov. 23	(Fri)	Rm. 603, Bldg. 14
#4	Dec. 7	(Fri)	Waseda Campus
#5	Dec. 21	(Fri)	

☆The workshops will help you make plans for studying kanji by yourself, and provide you with tasks and resources for studying kanji.  
 ☆The organization of this workshop is different from the last semester. You do a variety of activities/tasks that match your current level of kanji-proficiency.  
 ☆Students of all levels are welcome to attend the workshops.

Kanji Support Project  
Center for Japanese Language, Waseda university

**NEW (task-based) KANJI WORKSHOP 日语汉字学习沙龙**

你想和我一起参加日语汉字学习沙龙吗?

汉字我都懂啊, 没必要吧...

在这个学习沙龙里, 我们可以一起学习啊!  
 ①利用我们介绍的工具和方法方便地掌握日语汉字的多项读音。  
 ②按照更好的方法区别日语汉字和中文汉字在词意及用法上的不同。  
 ③建立一个对自己的学习生涯有帮助的汉字词汇档案。

哦, 听起来还有用的!

在这里不是气氛严肃的教室, 大家可以再此轻松地学习。现场还有汉字小老师和大家一起交流。

在哪里? 什么时候? 当然可以, 具体请看这里。中途可以参加吗?

☆NEW Kanji Workshop for Fall 2012☆

#1	10/26	(周五)	16:30 - 18:00
#2	11/9	(周五)	
#3	11/23	(周五)	早稻田校区
#4	12/7	(周五)	14号馆603教室
#5	12/21	(周五)	

☆大家一起制定汉字学习计划, 汉字小老师会介绍很多对日语汉字学习有用的手机软件、教科书、参考书和网页, 供大家今后独立学习。  
 ☆这期沙龙在内容和形式上进行了全面改版。大家在这里可以通过实际的操作体验, 进而提升自己的日语汉字学习的能力。  
 ☆从1级到8级, 水平不限。欢迎大家随时加入我们的沙龙!

Kanji Support Project  
Center for Japanese Language, Waseda university

資料1 漢字ワークショップのフライヤー (英語版・中国語版)

## ② プロフィール

ワークショップに参加した留学生たちに、ワークショップの趣旨説明を行った後に、漢字を含めた日本語全般の学習歴とニーズ、中長期的な漢字学習の目的、将来的に実現したい理想的な漢字ユーザー像、ワークショップに期待することなどを「プロフィールと漢字学習の目的」シートに記入してもらった。以下、漢字の学習目的とワークショップで取り組んでみたいことに関する回答をいくつか選んで引用する。なお、表記や綴りなどは、全て回答原文のままである。

質問：どうして漢字を勉強したいですか。漢字を勉強する目的は何ですか。

- ・今、漢字は上手じゃありません。今、日本に住んでいますけど、何も読めません。
- ・ I want to learn more かんじ because it can help me to improve my Japanese. Also, かんじ

is very useful for daily life in Japan.

- ・ I want to be able to read Japanese better. Such as at trains when there is no hiragana.
- ・ There are many kanji in Japanese language and it is important to know the meaning of kanji. I want to work in Japanese company in Thailand.
- ・ To be able to read and understand Japanese periodicals.
- ・ 日本の新聞を読める用になりたい。
- ・ 漢字が好きですから。勉強にも必要ですから。
- ・ 漢字はたくさん意味がありますから、おもい白いです。
- ・ self-interest

質問：漢字ワークショップでどんなことがしたいですか。どんなことを期待していますか。

- ・ たくさん漢字を勉強したいです。Also, good methods to learn 漢字。
- ・ 漢字の勉強のしかた（方法）を学びたい。
- ・ 漢字を覚えるやすい方法をみつける。
- ・ I would like to know the origin and the patterns of kanji. Also, it would be great to get advice on how to learn kanji by myself.
- ・ To get resources for learning Kanji on my own.
- ・ To get resources on how to learn kanji on my own.
- ・ To provide with learning materials.
- ・ To show the techniques of writing.

これらの回答からも窺えるように、漢字そのものに対する興味関心に加え、日常生活における漢字知識の必要性、および、漢字の学習方法や学習リソースに対する関心が非常に高いようである。また、大学での研究活動や勉学、将来の就職を見据えた漢字のニーズも多く、参加者の学習背景も多岐にわたっていることが確認できよう。

### ③漢字学習チェック

プロフィールに続き、日本語版、中国語版、英語版のいずれかの「漢字学習チェックリスト」を記入してもらった。いずれのチェック項目も「～できる」「～を知っている」という形式になっており、漢字の運用能力だけでなく、漢字の学習能力や探索能力を知る手掛かりを得るために設定したものである。参加者は、自分にできる場合は○を、少しできる場合には△を、できない場合には×を書き入れる。各項目について、最初にチェックした日付を書き込み、もしできるようになった場合は、その日付も追加できるようになっている。

つぎ  
次の ことが できますか？

なまえ \_\_\_\_\_

○：できます △：少しできます ×：できません

		／	／
N	1	ひらがな、カタカナ、漢字の区別ができる。	
N	2	漢字をいくつかのパーツに分けることができる。	
N	3	母語と日本語の漢字の形の違いがわかる。	
NS	4	書き順の基本的なルールを知っている。	
NS	5	知っている漢字を正しい書き順で書くことができる。	
S	6	はじめて見た漢字の読み方を自分で調べることができる。	
S	7	Web 上に表示されている漢字や電子ファイルに表示されている漢字の読み方と意味を調べることができる。	
NSO	8	基本的な部首とその意味を知っている。	
NSO	9	漢字を見て、読み方が推測できる。	
O	10	勉強した漢字を覚える方法を知っている。	
	11	漢字のことば（熟語）の意味が推測できる。	
	12	ワードで日本語が入力できる。	
	13	日本語の Web ページから必要な情報を探すことができる。	
	14	自分の住所が漢字で書ける。	
	15	母語と日本語の漢字のことばの意味が必ずしも一致しないことを知っている。	
	16	和語と漢語の使い分けがうまくできる。	

資料2 漢字学習チェックリスト（日本語版）

チェック項目は、漢字学習のどのような側面に関わるのかに着目して、「認識 (N)」「調べる (S)」「覚える (O)」の3系統に分けた。しかし、必ずしも明確に分けられる訳ではなく、複数の系統に跨る項目も少なからずあった（例、認識+調べる=NS）。また、ワークショップの開催準備の段階では試験的に3つの系統に分けてみたのだが、運用を重ねるうちに、3系統には収まらない項目が増えてしまった（資料2の表で最も左側の列が空欄になっている項目）。

チェックリストのうち、3、15、16の項目は、主に中国語話者（漢字系学習者）に狙いを定めたものである。漢字の字形や意味、用法の面における潜在的な漢字学習の必要性を意識化させることが項目を設けた意図である。

#### ④漢字学習タスク

ワークショップでは、次のステップとして、上記③で取り上げたチェックリスト内の各項目

に対応している「漢字学習タスク」に取り組むことになる。参加者は、自分のチェックリストで△や×が付いた項目に焦点を絞った漢字タスクを選び、タスクの内容が説明されている「タスクシート」をサポートャーから受け取る。

各タスク活動の主な狙いは、漢字の学習方法だけではなく、漢字学習用の図書やウェブサイトといった学習リソース、さらには電子辞書やスマートフォン用アプリなどの学習ツールを試しに体験してみて、参加者がひとりでも使えるようになることである。各学習者の学習経験に合ったタスクを選んだり、どのタスクから始めればよいのか決めたりする場面でも、サポートャーができるだけ個別対応に近い形で支援するよう心掛けた。実際に、タスクに取り組む際にも、

漢字学習タスク一覧			
チェック項目	日付	番号	タスク名
1 ひらがな、カタカナ、漢字の区別ができる。		1a	漢字、ひらがな、カタカナを区別しよう
		2a	パーツのmissing linkを探そう
2 漢字をいくつかのパーツに分けることができる。		2b	パーツを使って漢字を組み立てよう
		2c	漢字の違いを見つけよう
		2d	漢字の中にパーツを見つけよう①
		2e	漢字の中にパーツを見つけよう②
		2f	漢字をボタンに分けよう
		3 母語と日本語の漢字の形の違いがわかる。	
4 書き順の基本的なルールを知っている。		4a	書き順の基本を覚えよう
		4b	漢字の書き順を練習する
5 知っている漢字を正しい書き順で書くことができる。		5a	書き順を調べよう
6 はじめて見た漢字の読み方と意味を調べることができる。		6a	地名の読み方を調べよう
		6b	漢字の読み方を音声で確かめよう
		6c	手書きから読み方を調べよう
		6d	漢字の読み方（音読みと訓読み）を調べよう
		6e	駅の表示を読んで、意味を理解しよう
		6f	小説を読んでみよう
7 WEB上に表示されている漢字や電子ファイルに表示されている漢字の読み方と意味を調べることができる。		7a	WEB上の漢字の読み方と意味を調べよう
		7b	リーディングチュウ太を使ってEメールを読もう
8 基本的な部首とその意味を知っている。		8a	部首の意味を調べよう
9 漢字を見て、読み方が推測できる。		9a	漢字の形と読み方の関係を意識しよう
		9b	漢字の形と読み方の関係を意識しよう（初級）
		9c	漢字の形から意味を推測しよう（初中級）
10 勉強した漢字を覚える方法を知っている。		10a	ことばとことばの組み合わせを意識しよう（形容詞）
		10b	語と語のつながりを意識しよう（動詞_中級）
11 漢字のことば（熟語）の意味が推測できる。		11a	漢字のことばの構成を考えよう
		11b	知っていると便利な漢字（初級）
		11c	知っていると便利な漢字（中級）
12 ワードで日本語が入力できる。		12a	日本語をタイプしてみよう
13 日本語のWEBページから必要な情報を探ることができる。		7a	と統合
14 自分の住所が漢字で書ける		14a	申込用紙を漢字で書いてみよう
15 母語と日本語の漢字のことばの意味が必ずしも一致しないことを知っている。		15a	同形類義語における意味のズレを意識しよう
		15b	漢字の読み方を音声で確かめよう
16 和語と漢語の使い分けがうまくできる		16a	和語と漢語の使い分けを意識しよう
		16b	漢語の動詞と和語動詞を結んでみよう
		16c	和語動詞の意味の広さを感じよう

## 資料3 漢字学習タスク一覧

適宜、リソースの使い方などを説明し、タスク活動がスムーズに進むようサポーターが助言した。

例えば、「4a 書き順の基本を覚えよう」のタスクでは、若干の漢字学習経験がある非漢字系学習者が、インターネット上の漢字学習支援サイト“Kanji Alive!”を使って、漢字の筆順のルールやパターンを確認する。このタスクの狙いは、このサイトの存在を知り、使えるようになることだけではない。正しい書き順で字形が整った漢字が書けるようになることで、パソコンや電子辞書の「手書き文字読み取り機能」を使えるようになることを体験することもタスクの目的に含まれる。このように、後の自主的な漢字学習につながるポイントについて、学習者に確認しながらタスク活動を進めていくのもサポーターの重要な役割である。

漢字ワークショップ  
漢字学習タスク 4a 「書き順の基本を覚えよう」

書き順の基本を覚えよう

1. Kanji Alive! <http://kanjialive.uchicago.edu/web/> を使って、次の漢字の画数と書き順を調べましょう。(漢字を探すべき、読み方はローマ字でかいてください)

漢字	読み方	画数	書き順						
木	き モク	4							
口	くち コウ								
早	はや ソウ								
花	はな カ								
川	かわ セン								
外	そと ガイ								
体	からだ タイ								
小	ちひ ショウ								
水	みず スイ								
回	まわ ガイ								
国	くに クニ								

漢字ワークショップ  
漢字学習タスク 4a 「書き順の基本を覚えよう」

2. 1番の書き順を見て、基本的なルールを「考えましょう」。

(1) 線は ( ) から ( ) へ 書きます  
 (2) 線は ( ) から ( ) へ 書きます

(3)  の場合は、( ) のパーツから書きます

(4)  の場合は、( ) のパーツから書きます

(5)  の場合は、( ) の線から書きます

(6)  の場合は、( ) から書きます。ただし、下の線は最後に書きます。

資料4 タスクシート「書き順の基本を覚えよう」

参加者は、いくつかのタスクを試した後で、タスク活動を通じて気付いた点や難しかった点を他の参加者やサポーターと意見共有した。他者と共有することにより、各参加者がタスク活動で得られた体験や知識を自分なりにふり返って整理したり、他者から新しい視点の提供を受けたりする機会となることを意図している。

### ⑤漢字学習計画・ふり返り

秋学期のワークショップは隔週で開催されたので、次のワークショップがあるのは2週間後になる。参加者は、ワークショップの時間内で扱った学習リソースや学習ツールの活用を盛り込みながら、2週間分の学習計画を立て、「漢字学習計画・ふり返りシート」に記入した。学習計画の項目は、「目標：できるようになりたいこと」および「2週間の行動計画：目標のためにすること」である。各参加者は、「記入例」を参考にしつつ、サポーターや他の参加者とのやりとりを通して、中長期的な漢字の学習目的との整合性に十分注意を払いながらも、可能

な限り具体的な目標と計画を立てた。特に、行動計画に関しては、「取り組む」「努力する」「頑張る」といった漠然としたものではなく、「いつ」「どこで」「どのように」「どんなペースで」「どんな学習リソースを使って」漢字学習を進めるのか、具体的な行動を伴う計画に仕立て上げられるよう努めた。

<small>かんじ がくしゅうけいかく</small> <b>漢字学習計画</b>	<small>かえ</small> <b>ふり返り</b>		
<p>1. 2週間の漢字学習の計画を立てましょう。  <small>たいりょう</small>                      目標 (できるようになりたいこと) _____ 年 月 日</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin: 5px 0;"></div> <p>2週間の行動計画 (目標のためにすること)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; margin: 5px 0;"></div>	<p>2. 2週間の漢字学習をふり返ってみましょう。  <small>じよひひやう</small>                      自己評価 _____ 年 月 日</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px; vertical-align: top;"> <p>漢字の勉強は、予定通りにできましたか</p> <p><input type="checkbox"/> よくできました</p> <p><input type="checkbox"/> まあまあ できました</p> <p><input type="checkbox"/> 少しだけ できました</p> <p><input type="checkbox"/> ぜんぜん できませんでした</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px; vertical-align: top;"> <p>漢字の勉強で難しかったことやわからなかったことが、あったら書いてください。</p> </td> </tr> </table> <p>コメント (自由に書いてください)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin: 5px 0;"></div>	<p>漢字の勉強は、予定通りにできましたか</p> <p><input type="checkbox"/> よくできました</p> <p><input type="checkbox"/> まあまあ できました</p> <p><input type="checkbox"/> 少しだけ できました</p> <p><input type="checkbox"/> ぜんぜん できませんでした</p>	<p>漢字の勉強で難しかったことやわからなかったことが、あったら書いてください。</p>
<p>漢字の勉強は、予定通りにできましたか</p> <p><input type="checkbox"/> よくできました</p> <p><input type="checkbox"/> まあまあ できました</p> <p><input type="checkbox"/> 少しだけ できました</p> <p><input type="checkbox"/> ぜんぜん できませんでした</p>	<p>漢字の勉強で難しかったことやわからなかったことが、あったら書いてください。</p>		

資料5 漢字学習計画・ふり返りシート (日本語版)

2回目以降のワークショップでは、2週間分の漢字学習が計画的に進んだかどうか、参加者はサポーターと話し合い、自己評価を行う時間を設けた。サポーターは、参加者に自己検証を促すような問い掛けを行いながらふり返りを進めた。各参加者は、時に他の参加者と意見を交わしながら、「漢字学習計画・ふり返りシート」を完成させた。

### ⑥個人化辞書シート

本実践研究では、ワークショップ外で各参加者が自分の漢字学習を毎日記録し、自らの学習プロセスを意識化することを意図した学習支援ツールである「個人化辞書シート」を採用した。「個人化辞書シート」を継続的に使用することにより、漢字を具体的な文脈の中で捉えたり、実際の文脈に即して使用したりする姿勢を伸ばすことが期待されている。また、「個人化辞書シート」を作成すること自体が、漢字の字形や漢字語彙を覚えたり、漢字に関わる知識を自分なりに整理したりする学習活動であるとも言える。「個人化辞書シート」の理論的背景や導入意図などについては、次節において詳細に述べることにする (さらに、李 (2013) も併せて参照されたい)。

### ⑦ポートフォリオ化

上述したように、ワークショップでは、様々なシート類を作成し、活用している。参加者ひ

とりひとりの「プロフィール」や「漢字学習チェックリスト」、実際に使った多くの「タスクシート」、全ワークショップ期間中の「漢字学習計画・ふり返りシート」、記入済みの「個人化辞書シート」などを一括してファイルし、各参加者の学びをまとめる「ポートフォリオ」とした。このポートフォリオは各参加者が自分で管理し、毎回のワークショップに持参することになっている。全ワークショップ終了後も、それまでの自らの漢字学習の成果として、そして、これからは漢字の自主学習を継続していく際の拠り所として機能することが期待されている。

第2回目以降のワークショップでは、上記②から⑦までの手順を繰り返すことにより、ワークショップを運営した。継続的な参加者に対しては、「漢字学習計画・ふり返りシート」の記述を材料にして2週間分の漢字学習をふり返り、他の参加者やサポーターと意見交換したり、情報共有を図ったりした。最終回のワークショップでは、今後の漢字学習支援に活かすため、参加者の同意を得た上で、各々のポートフォリオに納めてあるシート類をその場でスキャンさせてもらった。

### 3. 個人化辞書シート

日本語学習者の漢字学習は、単純な量ではなく、どの程度使いこなせているかという質的観点から見る必要がある。学習者が漢字・語彙の理解を深めた上で応用できるようになるには、どのような支援が求められるのか。そして、学習者それぞれのニーズに応えるためには、いかなる支援方法が必要となるのか。このような問いの下、李（2013）は学習者の自律的な漢字学習を支える有効な方法を探ることを目的とした研究を展開している。その一環として、漢字の学習支援ツールである「個人化辞書シート」を開発し、支援実践を行っている。以下では、「個人化辞書シート」の作成経緯と使用方法を詳細に説明する。

#### ①ワークショップにおける位置付け

まず、前節で紹介したワークショップの流れを、図1に示す。参加者は、漢字学習チェックリストを記入して「何ができるのか」「何が苦手なのか」を確認する。そして、サポーターが漢字学習に関するリソースやツールを導入し、その場ですぐ操作してみせる。参加者はサポーターと話し合いながら漢字タスクに挑戦し、最後に学習計画を作成する。ワークショップ終了後、参加者は自宅で自主学習を行い、「個人化辞書シート」を使って、自分の学習記録を残す。次回のワークショップでは、サポーターと一緒に「個人化辞書シート」上の学習記録を参照しながらふり返りを行う。

このようなワークショップの一連の流れの中における「個人化辞書シート」の役割は、「自主学習を行い、学習記録を残す」という段階で、学習記録ツールとして、同時に学習者の自律的な漢字学習を支える支援ツールとして、位置付けられる。

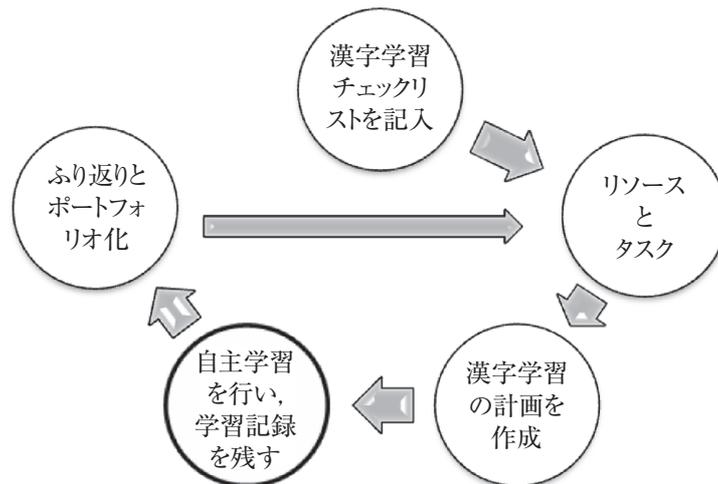


図1 漢字ワークショップの進行

### ②個人化辞書シートの理論的背景

本シートの開発は、次の3つの問題意識に由来する(李(2013))。1点目は、留学生の学習背景は多様であり、歴史学を専攻する学習者と経済学を専攻する学習者の学習ニーズはかなり異なっているということである。教室で同じ教科書によって漢字を学ぶだけでなく、自分の専門と関係がある漢字をさらに学びたいという学習ニーズがある。しかし、学習者の学習ニーズに応えられる支援ツールは少ない。2点目は、ひとつの漢字について、読み書きの方法や意味だけでなく、自分にとって意義のある情報を集めるための工夫があまり見られないという問題である。3点目は、学習者には自分の漢字学習を自分でモニターすることにより効果的な学習ができるという認識があるが、実際には学習を補助できるツールが少ないため、学習を継続的にモニターできないという問題である。以上の問題意識を学習支援ツールの開発によって補おうという構想の下、「個人化辞書シート」は考案された。

また、「個人化辞書シート」の理論的背景についても解説しておきたい。まず、川口(1993、2010)の研究では、漢字を考え、漢字を使うのは文脈の中で行うべきであるという観点が挙げられている。つまり、漢字指導において、漢字が文脈の中でどのような意味で使われているかを考えさせる必要があり、特定の学習者のニーズに従って、漢字・語彙の適切な使用コンテキストを示しつつ指導する必要がある、ということである。

学習者からは、漢字がなかなか覚えられないという意見も頻繁に耳にする。そこで、李(2013)が「個人化辞書シート」をデザインする際には、Laufer and Hulstijn(2001)の「関与負荷仮説」を参考にしている。彼らの研究では、語彙習得における記憶保持に影響を与える要因として「必要性(need)」「探索(search)」「評価(evaluation)」という3つの要因が挙げられている。この3つの要因が関わる負荷(involved load)が高ければ高いほど、記憶が長く保持できるという研究結果がある。この研究結果は、語彙学習としての漢字学習の場合にも当てはまると考えられる。

### ③個人化辞書シートの狙い

「個人化辞書シート」の目的は、学習者にできるだけ文脈の中で漢字・語彙を理解して、使用するという学習意識を身に付けさせるということである。そして、学習者が自分で学びたい

漢字・語彙を選択し、学習リソースを利用して自ら検索・検討する作業が行えるということも目指している。そうすることにより、より効果的な自律的学習が行えると想定している。さらに、ワークショップにおけるサポーターとのふり返りによって、学習者が自らの学習を自己評価できるようになるだろうとも考えられる。

#### ④個人化辞書シート使用方法

「個人化辞書シート」には、初級用と中級用があり、日本語、中国語、英語の各バージョンがある（資料6-①②③を参照のこと）。学習者の日本語レベルと母語を含む使用言語に応じてシートが選択できる。このシートの各部分に「何を」「どう記入すればよいか」という説明は、「学習者向け」と「サポーター向け」の2種類がある（資料7、資料8-①②を参照）。

1枚のシートを記入するには、10分～15分かかると想定されている。ワークショップの参加者が継続して利用しやすいように、平日に1日1枚記入すればよいということや、これは宿題ではないということを説明した。参加者が自分のニーズに合わせてやすいように、記入する言語には特に制限を設けていない。

*Personal Dictionary Cards*

Date :    Y    M    D

No

☆ When and where did you meet this word?

☆ Please try to reproduce the conversation or the sentence at that time.

☆ Please try to use this word in your personal context.

*Today's* Kanji Word


☆ Meaning:

☆ Reading:

★ Share "My Method" of memorization

★ Advice from others

英語版・初級用

© Yuzhe Li, All Rights Reserved

資料6-① 個人化辞書シート (英語版・初級用)

— 52 —

个人词典 卡片

日期：    年   月   日

No. \_\_\_\_\_

☆ 你是在什么时候, 在一个什么样的场合看到这个单词的呢?

☆ 尝试着复述出当时的对话或者文字。

☆ 尝试用自己的知识, 使用一下这个单词。

今天的单词

☆ 近义词:

☆ 读音相同意思不同的单词:

☆ 分享我的记忆方法:

☆ 汉字相同送假名不同的单词:

☆ 来自他人的建议:

中国語版・中級用© Yuzhe Li, All Rights Reserved

資料6-② 個人化辞書シート (中国語版・中級用)

**個人化辞書 シート**

日付:   年   月   日

No.

☆いつ、どのような場面でこのことばに会ったのでしょうか。

☆その場面の会話・文章をできるだけ書いてみてください。

☆自分の物語でこのことばを使ってみましょう。

今日のことば

☆ 類義語:

☆ 読みが同じで意味の異なる別のことば:

☆ 漢字が同じで送り仮名の異なる別のことば:

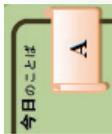
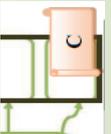
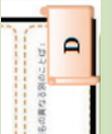
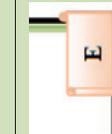
★ 私の覚え方:

★ 他の人からのコメント:

日本語版・中級用© Yuzhe Li, All Rights Reserved

資料6-③ 個人化辞書シート（日本語版・中級用）

### 使い方・使用方法・How to use

STEP	日本語	中国語	英語
	今日のことばを記入してください。好きなことばや、使いたいことばなど、何でもよい。	写下一个今天遇到的单词。条件不限，可以是你喜欢或觉得有用的等等。	Please write down any word you've met today, could be your favorite word or the one you found useful.
	どのような場面での単語と出会ったのか。そして、自分のストーリーで使ってみてください。	请按顺序写出，你在什么情况下遇到这个单词（可用中文），并用现有知识造句或者写短文。	Please write down in sequence, in what condition you've met this word (could use your L1), and try to use word to construct a sentence or write a short text in your own story.
	今日のことばと関連付けられた「もの」をできるだけ多く記入してください。	写出你所想到的，和这个词有关系的单词或者事物。（不知道的可用中文）	Please write down the words or things that come in your mind which connected with this word (could use your L1 or Japanese).
	辞書やリソースを通し、ことばについての知識を幅広くする、自分にとって有益なことを優先して書いてみよう。	通过利用我们提供的资源，扩充一下有关这个词的知识范围。以自身认为有用的例子优先。	Use the resource we provided to expand the knowledge scale of this word, please write the useful examples on your own priority
	独自の方法をシェアしましょう。次回、サポーターと学習者同士と意見交換をしましょう。	请分享一下，你是如何记住这个词的，（可用中文，可绘图）下次的活动中，大家一起交流想法	Please indicate in what way you memorized this word. (could use drawings or characters) we could discuss it in this Workshop next month.

個人化辞書 シート

日付: 年 月 日 日

今日のことば

★ 辞書などで調べたことばを記入してください。

★ 漢字が同じで意味の異なる漢字のことばを記入してください。

★ 個人的な方法

★ 漢字が同じで意味の異なる漢字のことば

★ 漢字が同じで意味の異なる漢字のことば

★ 今日のことば

★ 今日のことば

★ 今日のことば

★ 今日のことば

日本語部・中経用

© Yuta Li. All Rights Reserved

資料7 「個人化辞書シート」の使用方法（学生用）

The diagram shows a 'Personalized Dictionary Sheet' with several sections labeled A through E. Section A is '今日のことば' (Today's Word). Section B is 'メモ' (Notes). Section C is '語彙' (Vocabulary). Section D is '漢字・語彙' (Character/Word). Section E is '個人化辞書' (Personalized Dictionary). There are also instructions for each section, such as '今日のことば' being for words learned today, and '個人化辞書' being for words learned from others.

### 個人化辞書シート（サポーター用）

○ 「個人化辞書シート」の背景と目的

これまでの語彙学習において、学習者に任せる比重が多く、むしろ教師に教えられるより、自分で自分のペースで勉強するのほうが好きである。評価される際に、語彙の数、つまり量で勝負するのが普通と考えられている。しかし、語彙知識といえば、「深さ」と「広さ」という二つの側面から捉えられていると言われている。いわば、文脈によって一語は複数の意味を持ち、一語と関連付けのことは数多く存在することである。

そこで、「漢字学習サポーター」というワークショップでは、学習者の語彙学習を新たな方法でサポートするために、この「個人化辞書シート」をお作りした。この名称では、「個人化」という概念を援用されており、学習者の漢字学習をよりよく効率的で行われ、自分だけに合う漢字学習の方略を見つけれられるようにサポートするという意図がある。

そして、学習者に「漢字・語彙」を文脈の中で考えさせ、文脈の中で使う習慣を身につけさせ、徐々に漢字語彙習得にも結び付けていくことは期待できる。ここでは、「辞書」を作るのは、最大かつ最終的な目的ではないと考えており、このシートを利用する間に、「漢字・語彙」学習に対して、漢字の魅力は何なのか、自分に意味がある語彙学習はどんな形なのか、自分のすぐ使える語彙学習ができるのか、いろいろ考えてもらいたいと思っている。その考えるプロセスでこそ、語彙学習の楽しさと意義があるのではないと思う。

○ 「個人化辞書シート」の概要

「個人化辞書シート」、初級用と中級用があり、それぞれ日中英語のバリエーションがある。学習者の背景に当てはまるシートを選択する。学習者は継続できるように、平日に一日一枚を記入してもらおう。記入することには制限はない。

資料8-① 「個人化辞書シート」の使用方法（サポーター用・1ページ目）

○「個人化辞書シート」各部分の説明

各部分に **A** のように順番をつけておいた。そうすると、記入する際に、この順番で書き込んでもらっていいと指示するのをお願いします。

**A** **まず、今日のことばを記入する。**すでに述べたようにことばには制限はない。なぜ真ん中に置くかというと、ここは視線が最初にあたった場所のため、バランスを感じられ集中しやすいと言われている。色づけは無難の薄い緑にした。

**B** **次に、「文脈化」の概念を基にして、このことばの文脈を振り返って使ってみる段階である。**この部分の中に、三つの枠があり、上は①、左下は②、右下は③で、この順番で記入してもらう。

- ①において、記入項目は、場所と話題と人物となる。(母語で、単語レベルで、簡単でいい)
- ②では、その場の情報を思い出す。初級学習者にとっては、さすがに難しい。しかも、正しく書き出すことはそもそもの期待ではなく、この段階では最も肝心な部分ではない。学習者は考えるプロセスがあればいい。(記入は、母語で、簡単でいい)
- ③自分の文脈でことばで、連語を作ったり、文を作ったりする。ここでは見られるものではなく、四つのタイプがあるかもしれない。  
正しい産出/正しいものの、不自然な/間違い/空欄  
(それぞれ分析する価値があるのではないかと考えている。)

**C** **漢字マップの概念が入れてみたミニマップである。**

今日のことばと関連づけて、頭の中にネットワークを作るように整理したものを記入する(日本語と母語でいい)。この段階では、個人的な経験や母語知識を映されるとみられ、学習者の「今日のことば」に対する理解の深さと広さをも反映されていると考えられる。

**D** 学習者の手元にある諸辞書を効率的に使い、「漢字・語彙」知識を幅広くするための補足段階であると言いたい。類義語や同音異訓語や同形類義語などの情報を足すことができる。(難易度を考慮したうえで、初級と中級の違いは、この部分だけにある)

**E** 「個人化」の度合いが高い「漢字・語彙」学習が見られることと、学習者同士やサポーターからのアドバイスが聞ける段階である。

まず、「私の覚え方」について、文字で方法か、イメージや物語を作った方法など、多彩な個人化学習が見られる。そして、コメントについて、サポーターからのコメントは、主として、**A③+C+E** をめぐってアドバイスを提供するようにお願いしたい。

#### 4. ワークショップ実践の結果と考察

平成24年度春学期の4月以降に毎月1回、合計4回のワークショップを開催したところ、次のような参加状況となった。

春学期	第1回：4月27日（金）16：30-18：00	参加者14名
	第2回：5月25日（金）16：30-18：00	参加者 8名
	第3回：6月22日（金）16：30-18：00	参加者 5名
	第4回：7月20日（金）16：30-18：00	参加者 7名

春学期のワークショップでは、学習リソースやツールの紹介の後、すぐに学習計画の立案に取り掛かっていた。しかし、短時間の紹介だけでは、リソースやツールの使い方が十分に定着しないことが判明した。また、本実践研究の目指す「自律的な漢字学習」に対する理解が留学生からなかなか得られないことも分かり、学生自身の主体的な漢字学習のための計画を立てることが予想以上に困難であった。これらの点が障害となつてか、継続的な参加が伸び悩み、参加者数が低調であったことが最大の誤算であった。

春学期における実践の反省を踏まえ、秋学期のワークショップでは、学習リソースやツールを十分使いこなせるようになるために、学習リソースやツールを実際に使って体験する「漢字学習タスク」を数多く用意した。その結果、リソースやツールの利用方法は身に付いてきたようである。しかしながら、それらのリソースやツールを日々の学習や日常生活の中で十分に活かすような学習・利用の計画を立てることは、まだまだ難しいようである。

秋学期は広報活動にも一層力を入れたのだが、ワークショップへの継続的な参加者の増加にはあまり結び付かなかった。

秋学期	第1回：10月26日（金）16：30-18：00	参加者13名
	第2回：11月 9日（金）16：30-18：00	参加者15名
	第3回：11月23日（金）16：30-18：00	参加者 7名
	第4回：12月 7日（金）16：30-18：00	参加者 8名
	第5回：12月21日（金）16：30-18：00	参加者 4名

初回ワークショップの参加者には、依然として、教師による「漢字の授業」だと勘違いしている留学生も少なからずいたようである。また、最終回のワークショップでは、一足早くクリスマス休暇を取って、早々に帰国してしまった学生が目立った。運営面に関しては、自律性に関する理念を留学生全般に浸透させるには、より一層の時間がかかるということを改めて思い知らされた。また、中国語話者（漢字系学習者）に漢字学習の意義を理解させるには、より工夫を凝らす必要があることも痛感した。

残念ながら最終回のワークショップまで継続して参加した留学生はごく少数に限られているものの、秋学期最後のワークショップで実施した質問紙調査とインタビュー調査では、大半の留学生がワークショップに対して肯定的なコメントをしていた。以下に、質問と回答をいくつか挙げる（中国語のみ日本語に翻訳してある）。

質問：漢字ワークショップ全体に対する感想や意見を教えてください。

- ・ I'm satisfied with the results I achieved. Thanks a lot kanji workshop organizers, and supporters. It was fruitful.
- ・ Teacher [supporter] is very helpful and resources are useful.
- ・ サポーターのアドバイスからいろいろ勉強になりました。
- ・ たくさんの漢字学習に関するリソースを得ました。

質問：今後も漢字学習を続けていきますか。

- ・ Just to continue to work with some on-line resources. I found most convenient and interesting to study kanji.
- ・ I will try to learn kanji every day. And try to remember the content to help me to remember the kanji.
- ・ これからは漢字を見たら、すぐ辞書で調べて(確認作業を行って)、その漢字を覚えます。
- ・ ワorkshopで学んだ学習方法で日本語の漢字を勉強していきたいです。
- ・ 自分の学習ペースに合わせ、学習計画を立ててみます。日常生活からの積み重ねを意識します。

いずれの回答からも、ワークショップへの参加やサポーターによる丁寧な支援が有意義なものであったと評価していることが分かる。さらに、ワークショップが終了した後でも、自分自身で学習リソースを使いながら漢字学習を継続していこうという意気込みが見て取れる。これは、自律的な漢字学習の実現へ向けて、一歩踏み出したことの証である。

また、最後の回答で述べられているように、日常生活の中でも漢字に意識が向くようになった参加者もいる。この意識の変化は、漢字というものは教室内だけで学ぶのではなく、自分自身の生活に直結した生きた文脈の中で自らが能動的に理解すべきものだとして捉え直していることを表している。これらは、漢字観の変化であり、漢字学習観の変容である。

## 5. 結論と今後の展望

ワークショップを中心に据えた本実践研究は、留学生が漢字の授業や教師だけに依存することなく、自らの漢字学習を設計、実行、検証する機会を提供することにより、自律的な漢字学習の実現を目指した挑戦的な取り組みである。残念なことに参加者数は伸び悩んだものの、学習者の意識の中に自律性の萌芽を確認できたことが最大の収穫である。

今回は漢字学習に特化した試みであるが、より大局的な観点から眺めれば、単に漢字だけではなく、日本語学習全般について自律的に学ぼうとする日本語学習者が育つ環境を構築していくための第一歩として位置付けられる。ひとりひとりの留学生が、理想的な日本語ユーザー像を描き、その実現に向けて自らの学びを自分自身の手でデザインし、主体的な日本語学習を進めていこうとする。このような学習者の成長を促す実践の積み重ねは、生涯にわたって学び続ける姿勢を備えた人材の育成につながっていくはずである。

また、今回の取り組みのような実践研究にあっては、実践計画の設計、実行、省察、省察に基づく新たな実践計画の設計、という「省察サイクル」を滞りなく循環させ続けることが肝要

である。本実践研究においても、ワークショップの運営に直接関わったサポーター（教員と大学院生）による定期的なミーティングの場を設け、絶えず省察と見直し、改善を図ってきた。今後は、本実践研究から得られた知見や経験を基に、さらなる実践へと発展させなくてはならない。そのためには、本実践研究の成果を広く発信し、ひとりでも多くの専門家や教育関係者から幅広くフィードバックを得て、より効果的な実践の実現へと結び付けていかなければならない。このような不断の努力も、実践研究には欠かせない要素であり、決して忘れてはならない今後の課題である。

## 参考文献

- 川口義一（1993）「コミュニケーションアプローチの漢字指導」『日本語教育』80号、pp. 15-27。
- 川口義一（1995）「コミュニケーションアプローチと認知科学に基づく漢字指導の試み」川口義一・加納千恵子・酒井順子（編著）『日本語教師のための漢字指導アイデアブック』創拓社、pp. 250-306。
- 川口義一（2010）「漢字指導の新しい方法：記憶・意味・教授法」*Proceedings of the 17th Princeton Japanese Pedagogy Forum*, pp. 1-14. Princeton, NJ: Princeton University. (URL: <http://www.princeton.edu/pjpf/past/17th-pjpf/YKawaguchiProceeding2010.pdf>) 2013年4月27日閲覧。
- 黒田史彦・尾関史・古屋憲章・宮崎七湖・李羽喆（2013）「留学生の自律的漢字学習を支援するためのワークショップの試み」『日本語教育方法研究会誌』Vol. 20, No. 1, pp. 40-41。
- 李羽喆（2013）「『個人化辞書シート』による自律的漢字学習支援の試み」『JSL漢字学習研究会誌』第5号、pp. 112-119。
- Laufer, Batia and Jan Hulstijn (2001) Incidental vocabulary in second language: The contract of task-incident involvement. *Applied Linguistics*. 22, pp. 1-26.

## 参考ウェブサイト

- Harumi Hibino Lory and Arno Bosse, *Kanji Alive!* (URL: <http://kanjalive.com/>) 2013年4月27日閲覧。